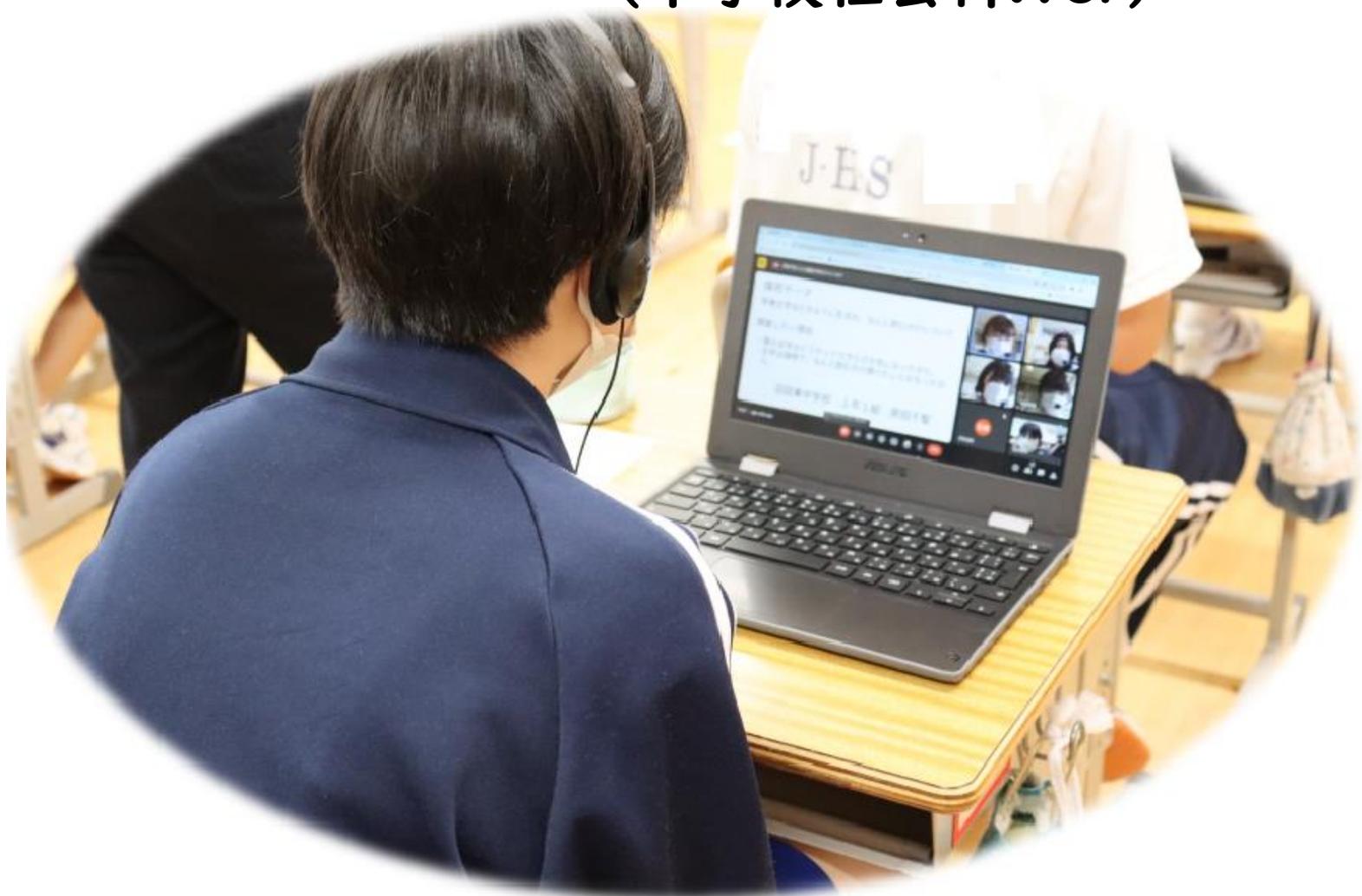


やってみよう！！

探究的な学習過程の設定と

ICTを用いた遠隔合同授業

(中学校社会科.ver)



群馬県総合教育センター

令和6年3月

はじめに

本資料集は、実践で活用した探究的な学習過程とICTを用いた授業実践を進めていくための資料、指導案、遠隔合同授業の課題把握のための遠隔教育システムアンケート調査を掲載しています。探究的な学習過程の設定や遠隔合同授業実施の際の参考として下さい。

目次

1 探究的な学習過程とICTを用いた遠隔合同授業とは？	P3
2 授業実践までの流れ（例）	P4
3 遠隔合同授業 打ち合わせ表	P5
4 授業を実施する上で必要な機器や注意点	P6～7
5 実践事例	
① ICTを用いた遠隔合同授業ソフトウェア構成	P8
② ICTを用いた遠隔合同授業ハードウェア構成	P9
③ 学習指導案	P10～25
参考 小規模校の遠隔合同授業実施のためのICTの活用状況の調査	
	P26～33

Ⅰ 探究的な学習過程とICTを用いた遠隔合同授業とは？

探究的な学習過程の設定は？

令和3年1月の中央教育審議会の答申では義務教育において「学校ならではの児童生徒同士の学び合い、多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ、地域の構成員の一人や主権者としての意識すること」が重要視されています。そこで、本研究では探究的な学習過程を社会科の授業に取り入れ生徒の**主体性や粘り強さなどを育成**するように考えました。

探究的な学習過程の流れ

- ①探究課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④中間検討
- ⑤考えを再構成
- ⑥最終検討

ICTを用いた遠隔合同授業は？

1人1台端末等を使い、離れた学校の生徒同士をオンラインでつなぎ、自分の考えや意見を伝え合う学習方法です。「遠隔教育システム活用ガイドブック第3版」（令和2年度文部科学省）によると遠隔教育には12の型がありますが**本資料で取り扱うICTを用いた遠隔授業とは「合同授業型 A2 遠隔合同授業」の指すもの**とします。

遠隔合同授業では継続的・計画的に、互いの学校をオンラインでつなぎ、考えやアイデアの特徴や共通点、違いを見付けることを目標とします。多様な意見に触れたり、**コミュニケーション能力**を培ったりすることが目標になります。

実際に取り入れると考えられる社会科の授業での効果は？

社会科の授業における学習場面を想定して考えてみました。以下のような場面で活用できると考えられます。

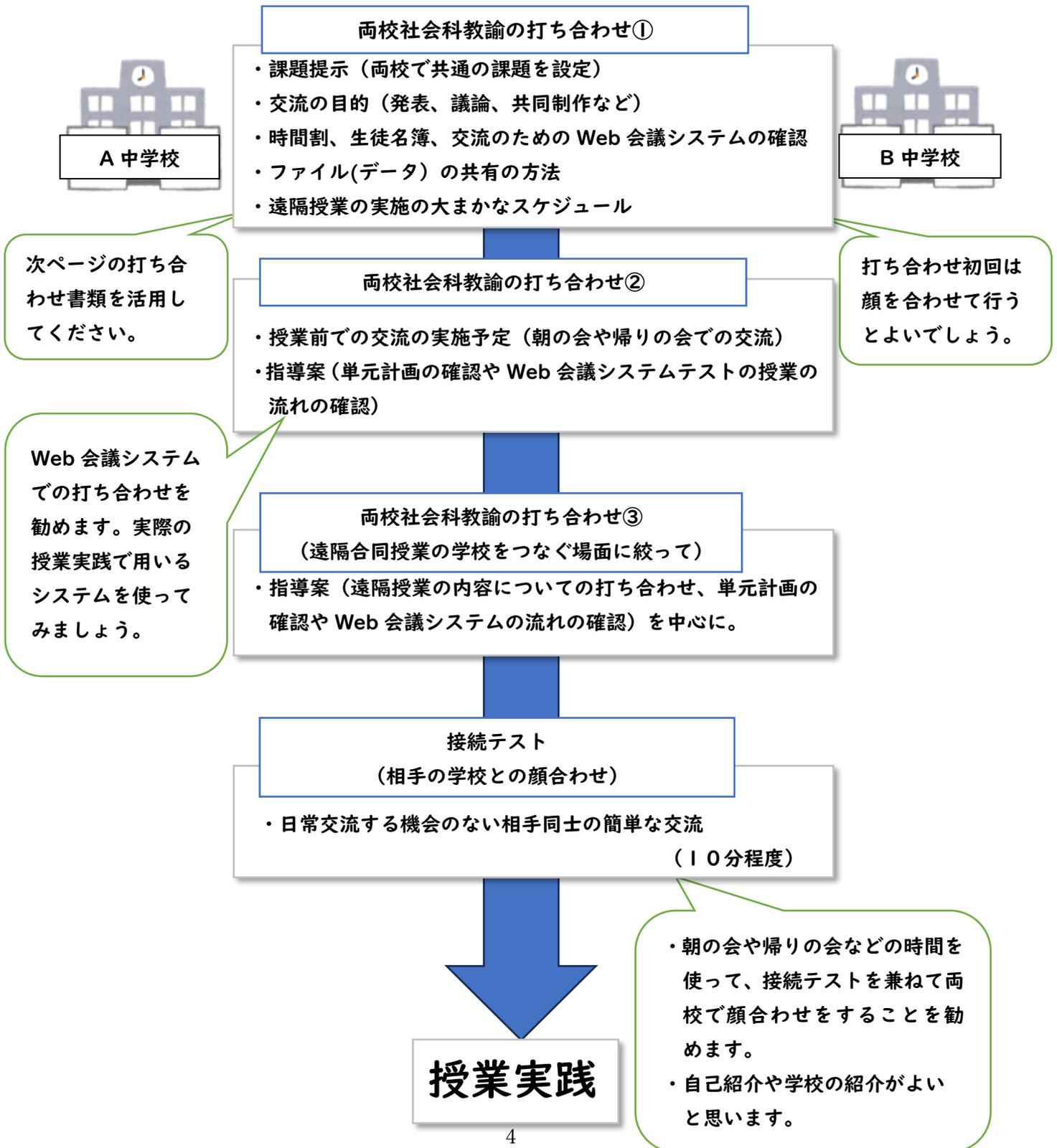
	考えられる主な学習効果
発表活動	・ 普段話したことのない相手に対して発表や説明を行うことで相手を意識しながら発表が可能。主体性が高まる。
共同制作	・ 一緒に制作活動を行うことで自分たちだけで考えられなかったアイデアを見付けたりアドバイスをもらったりする。コミュニケーション能力が高まる。
議論や話し合い	・ 離れた場所の相手と行うことで、地域差や生活経験の違いを生かし、質問し合うことで議論が生まれる。コミュニケーション能力が高まる。

単元の課題設定の注意点は？

日常的に接する機会のない生徒と議論や話し合い、発表を充実させるためには「交流する必要感のある課題や問い」の設定が必要です。共通点や違いに気づき、新たな考えを生み出せるような探究課題を設定しましょう。

2 授業実践までの流れ（例）

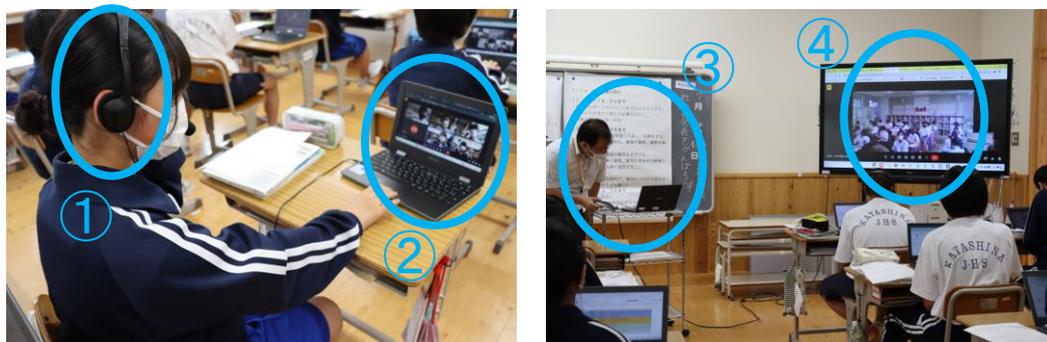
遠隔授業を行う相手が決まったら以下の図のような形で打ち合わせを行っていきます。
打ち合わせ内容、手順などの具体例を提示しました。



3 遠隔合同授業 打ち合わせ表

打ち合わせ項目	記入欄	
学年 単元について		
課題設定		
単元の実施期間 遠隔合同授業実施日		
遠隔合同授業で交流 する目的		
Web 会議システム (何を使うか)		
	自校	相手校
人数	学年： 組： 人 数：	学年： 組： 人数：
時間割		
授業目的公衆送信補 償金制度加入状況	<input type="checkbox"/> 加入	<input type="checkbox"/> 加入
教育支援ソフト		
Google においての 学校同士データの共 有が可能か	<input type="checkbox"/> データの共有が可能である <input type="checkbox"/> リンクを知っている人での 共有が可能 <input type="checkbox"/> グループ内（市町村や事務 所内）の共有が可能	<input type="checkbox"/> データの共有が可能である <input type="checkbox"/> リンクを知っている人での共有 が可能 <input type="checkbox"/> グループ内（市町村や事務所 内）の共有が可能
接続テスト	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要

4 授業を実施する上で必要な機器や注意点



・必要な機器

- ① ヘッドセット(イヤホン・マイク)
- ② 1人1台端末
- ③ Web会議ソフト使用端末
- ④ 相手校とのやりとりをするための大型モニター、一人一台端末



・あると望ましいもの

- ⑤ 無指向性マイク（全方位から音声を集めることができるマイク）
- ⑥ 多分岐アダプタ（グループで一つの端末を使用したい場合は、オーディオ分配器を使うと複数人で音声を発信可能になる）

Web 会議システムについて

	Google Meet (無料版)	Zoom (無料版)	Microsoft Teams (無料版)
接続 端末数	100台	100台	100台
時間	60分	40分	60分
その他 の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット ・挙手 ・画面共有 ・ホワイトボード ・ファイル共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット ・挙手 ・画面共有 ・ホワイトボード ・ファイル共有 ・ローカル環境への録画 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット ・挙手 ・画面共有 ・ファイル共有
部屋の 分割	無料版 不可 有料版 可	無料版 可(制限有) 有料版 可	無料版 可(制限有) 有料版 可

基本的な性能に差はありません。どの Web 会議システムでも有料版を活用すると部屋の分割が可能となりスムーズにグループで活動することができます。

時間割について

時間割の調整については学校同士での調整が必要となります。管理職、教務主任と調整しながら実施時間や実施場所を調整しましょう。

通信状況について

通信速度の面からも円滑に交流を進めるために注意が必要です。他校と通信回線を共有している場合、インターネットへのアクセスが集中します。その結果、遠隔教育システムの通信が安定しない場合があります。例えば昼休みや授業等でネットワークをよく利用する時間帯に、通信が安定しないことがあります。他のクラスのネットワーク実施状況を把握することも大切です。場合によっては生徒用の無線LAN環境だけでなく、有線LANを活用するなどの工夫が必要です。

授業目的公衆送信補償金制度加入状況について

平成30年に著作権法が改正され令和2年4月28日から施行されました。学校の設置者が一括して文化庁の指定管理団体「一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）」に授業目的公衆送信補償金を支払うことで、個別の許諾なく、オンライン授業等において様々な著作物を円滑に利用できるようになりました。

教育委員会などが他人の著作物を利用して作成した講義映像を児童生徒向けに送信する等の場合には本制度は適応されません。また、学校での購入が想定されるドリル・ワーク等を送信するなどの場合は、この制度は適用されません。

加入状況の確認については以下のホームページより確認できます。

授業目的公衆送信保証金制度

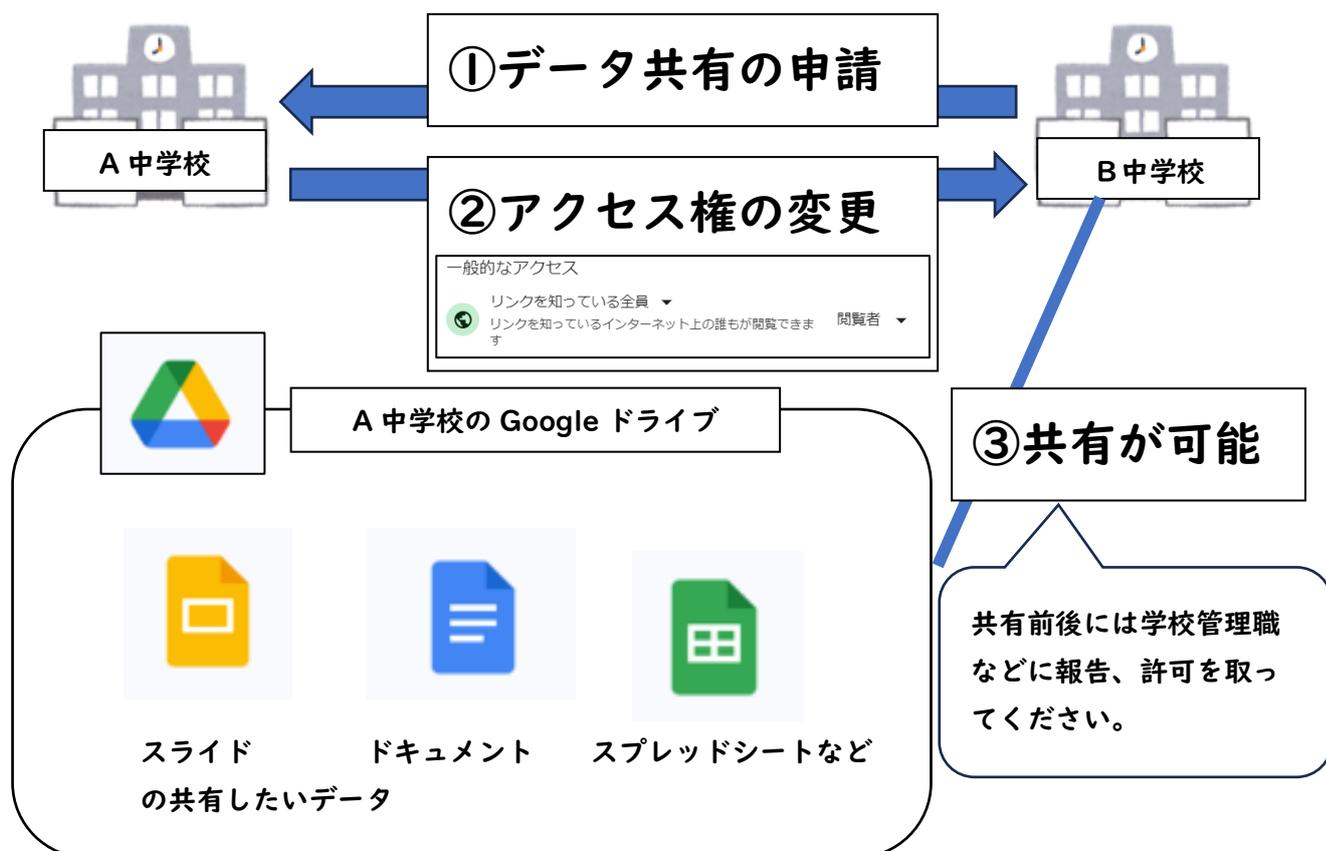
<https://sartras.or.jp/>より



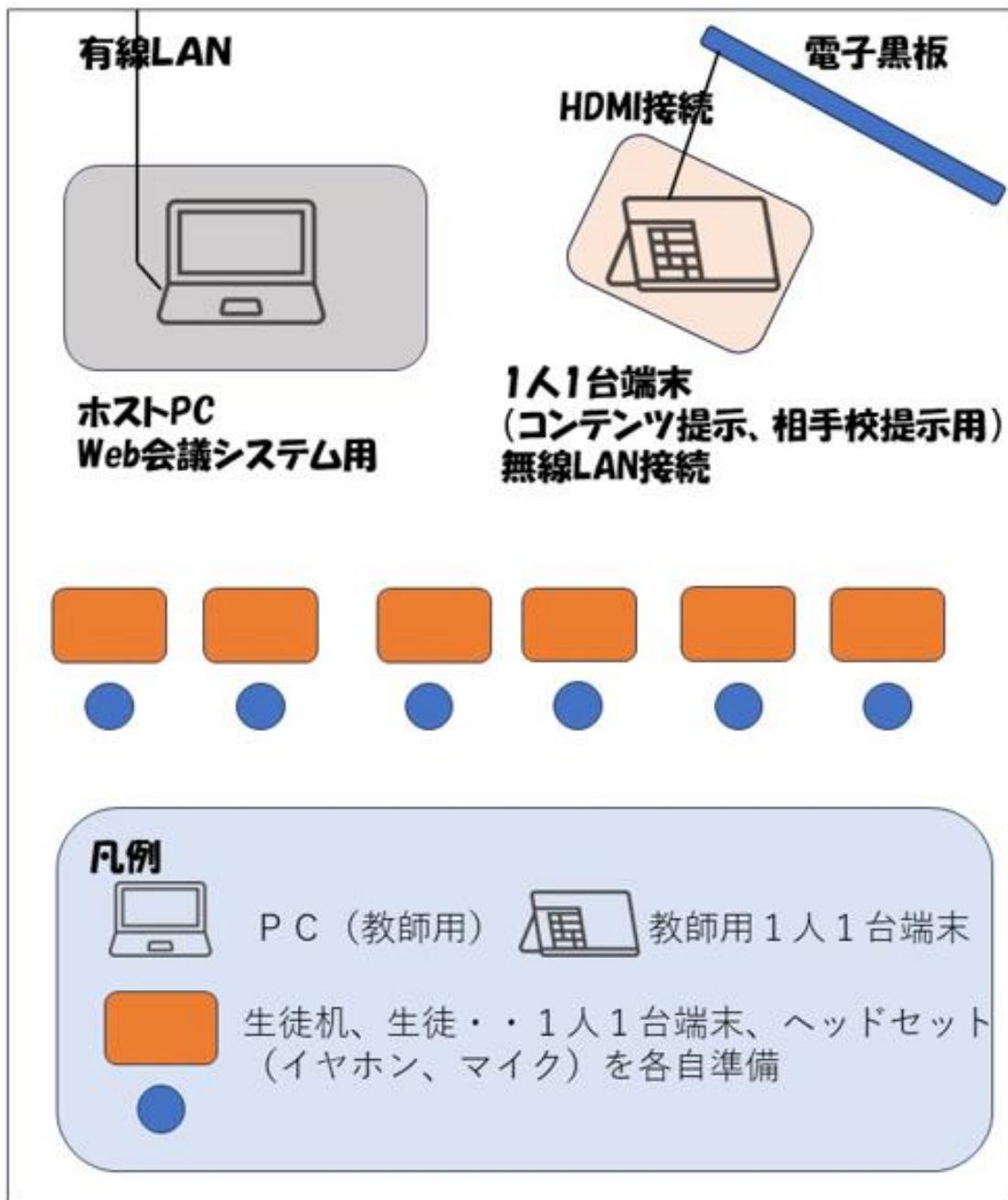
5 実践事例

① ICTを用いた遠隔合同授業ソフトウェア構成

複数校でデータ共有を行いたい場合



② ICTを用いた遠隔合同授業ハードウェア構成



社会科学習指導案

単元名（題材名）「地方自治の仕組み」

令和5年11月 3年 指導者 倉澤 秀祥

I 単元の構想

1 単元観

本単元は、学習指導要領（3）イ「民主政治と政治参加」の項目である。「自治とは何か、議会制民主主義を取り入れているのはなぜか、民主主義をよりよく運営していくためにはどのようなことが必要かについて理解させたり、主権者として政治に参加させることの意義について考えさせたりすること」が示されている。なお、その取り扱いについては「調査や見学などを通して具体的に学習することと書かれている。

現代の地方公共団体が抱える問題は多く、それを取り巻く環境は厳しいと言える。例えば、過疎化が進んだ地域では、赤字を減らすために鉄道やバスが廃止され、医者やいない地域が現れるなどの事例がある。一方、過密化が進んだ都市も、交通の渋滞や混雑、ゴミ問題、生活環境の悪化などが取り上げられている。加えて、少子高齢社会への対応が日本全国の自治体の共通の課題となっている。このような中、地方公共団体が地域のためにどのような取組を行っているのか理解することは大切である。その活動のために必要な予算や条例の制定方法などについても理解する必要がある。

さらに、将来、地域住民として地方公共団体の取組にどのように関わればよいのかを中学生なりに考えさせることも重要である。

本単元では、探究的な学習過程の設定とICTを用いた遠隔合同授業とを取り入れ、「片品村・下仁田町の山間地域を活性化する政策を県議会に提案しよう。」という単元の課題を設定して学習をする。現在、高速ネットワーク通信が整備され、離れた地域と交流できるようになった。そのため、いろいろな立場の人たちと中学生ならではの政策を議論し交流することで「広い視野をもちながら、地域のことを考えることができる生徒」を育成できると考え、本単元を設定した。

上記のことを踏まえ、本単元では、私たちの村、私たちの県の様子などを取り上げながら学習を進めていくことで、学習指導要領のねらいを達成できると考える。

2 研究との関わり

本単元では探究的な学習過程とICTを用いた遠隔合同授業を取り入れた実践を行う。探究的な学習過程については「課題の提示、情報の収集、整理・分析、中間検討、考えを再構成、最終検討」という学習過程を取り入れ、生徒が常に学習課題を意識しながら自主的に学習を進めていけるようにする。ICTを用いた遠隔合同授業については「遠隔教育システム活用ガイドブック第3版」（令和2年度文部科学省）の「A2 遠隔合同授業」を本単元では実施する。他校の教室とつないで継続的に合同で授業を行うことで多様な意見に触れたり、コミュニケーション力を培ったりする効果がある。日常的に接する機会のない他者と議論するICTを用いた遠隔合同授業を社会科で行うためには、議論を深めるための工夫や仕掛けが必要である。本単元では、「片品村・下仁田町の山間地域を活性化する政策を県議会に提案しよう。」という単元の課題を設定して学習をする。両自治体とも山間部の地域であるため共通する課題点を見付けやすく、地理的条件が異なるため、独自の政策が行われていることなどから相違点にも気付きやすい。探究的な学習過程とICTを用いた遠隔合同授業の二つの手立てを取り入れることで課題が明確になり、生徒が相手意識をもちながら粘り強く、主体的に学習に取り組むとともに、日常交流する機会のない生徒との交流で主体性や粘り強さ、コミュニケーション能力を育て、「自己肯定感」が高まると考えた。加えて、県議会に提案する政策を考える活動の中でどの政策がよいか考える際に効率や効果などの視点を加えながら考察していく。多様な考えを踏まえながら政策を考察していくことで「自他の考えを尊重し、粘り強く主体的に現実的な課題について考え、よりよい社会を構築しようとする生徒の姿」が育つと考えた。

3 単元（題材）の目標

	目 標
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">地方自治の仕組みを首長と議会の関係を中心に理解し、その事例や用語について説明できる。「町、村づくり」の課題や現代社会の関係を踏まえて、学習成果について他者に発信できる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">具体的な事例を基に地方自治が代表民主制を原則としながらも、直接民主制の手法を導入している理由について多面的・多角的に考察している。両地域の政策のよさ、課題点を踏まえながら、町づくり・村づくりについ

	て根拠に基づいて提言を行うことができる。
学びに向かう力、人間性等	・自分たちが住む地域の政治に関心をもち、両地域の課題について主体的に解決しようとする。

4 評価規準

知識・技能	地方自治の仕組みを首長と議会の関係を中心に理解している。
思考・判断・表現	片品村、下仁田町の実情から政策を作成する活動を通して、対立と合意、効率と公正、民主主義、個人の尊重などの視点をいながら、多面的・多角的に考察している。
主体的に学習に取り組む態度	片品村、下仁田町の山間地域に共通する課題解決に向けて政策を考え、主体的に社会と関わろうとしている。

5 指導及び評価、ICT活用の計画

過程	時間	■ねらい <input type="checkbox"/> 学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目<方法(観点)> [記]:記録に残す評価 <input type="checkbox"/> 指導に生かす評価 <input checked="" type="checkbox"/> 評定に用いる評価
つかむ	1	■ 地方自治がどのような考えに基づいて行われているか市町村の広報紙を基に気付き、地方自治について興味・関心をもつことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 地方自治体の仕事を片品村(広報かたしな、令和5年4月号)・下仁田町(広報しもにた、令和5年5月号)を基に調べ、課題を設定する(★)。				<input type="checkbox"/> ◆地方自治体の活動に興味をもち、単元の課題解決に向けて、主体的に学習を進めていこうとしている。 <ワークシート(態)>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[本時のめあて] 地方自治はどのような考えに基づいて行われているか。単元の課題を設定しよう。</p> </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[単元の学習課題] 片品村・下仁田町の山間地域を活性化する政策を県議会に提出しよう。</p> </div>						
追究する	2	■ 地方自治の仕組みを地方議会と首長の役割を中心に理解し、地域の事例を基に理解できるようにする。 <input type="checkbox"/> 地方自治(議会や地方選挙)の仕組みについて、片品村、下仁田町、群馬県の条例を基に調べる。				<input checked="" type="checkbox"/> ◆地方自治の仕組みを地方議会と首長の役割を中心に理解し、地域の事例を基に説明している。 <ワークシート(知・技)[記]>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[本時のめあて] 地方自治はどのような仕組みで行われているのか。片品村、下仁田町、群馬県を基に調べよう。</p> </div>						

3	<p>■各地方自治体の歳入、歳出表を活用して、財政事情と町づくりの課題点を考えられるようにする。</p> <p>□片品村・下仁田町・前橋市の財政面の課題と重点について、他市町村のグラフなどと比較したり、収入と支出の様子から分析したりして、財政の仕組みと課題について考える。</p>		●	<p>◆地方自治体の地方財政についての複数の自治体の資料を比較し、山間部の地方自治体の課題点を考えている。</p> <p><ワークシート・発言（思・判・表）〔記〕></p>
<p>[本時のめあて]</p> <p>市町村の財政にはどのような違いがあるだろうか。</p>				
4	<p>■片品村、下仁田町のよさや課題点を調査し、地域社会の活性化を実現するための自治体の政策をグループで調べ、まとめられるようにする。</p> <p>□自治体のよさ、課題点について資料を収集しまとめる。</p>	○		<p>◆山間部の地方自治体のよさや課題点に着目し、自分の自治体の政策を調査し、スライドに整理している。</p> <p><ワークシート（知・技）></p>
<p>[本時のめあて]</p> <p>地域社会のよさや課題点はどのような点か。自治体の実態や取り組んでいる政策などをまとめ、発表できるようにしよう。</p>				
5	<p>■それぞれの地域のよさや課題点について発表し、両自治体の共通するよさ、課題点についてグループで考えられるようにする。（★協力校と相手校とをオンラインでつなぐ）</p> <p>□二つの地域の共通点や相違点に着目し、二つの自治体のよさや課題について、表にまとめる。</p>		○	<p>◆二つの自治体のよさや課題に着目し、共通点や相違点を発見している。</p> <p><ワークシート（思・判・表）></p>
<p>[本時のめあて]</p> <p>両自治体にはどのようなよさ（強み）や課題（弱み）があるのだろうか。また、共通するよさや課題点はどのような点か考えよう。</p>				
6	<p>■それぞれの地域のよさや課題点を踏まえて、山間地域の両自治体で共通して実施できる政策について政策案を考えることができるようにする。</p> <p>□前時の活動を踏まえ、山間地域の活性化が行える政策を考え、先進的な事例を調査する。</p>		●	<p>◆山間部の地方自治体を活性化する政策についてよさや課題点、政策分野に着目しながら政策案を作り出している。</p> <p><ワークシート・発言（思・判・表）〔記〕></p>
<p>[本時のめあて]</p> <p>前時の片品村・下仁田町のよさや課題を踏まえて、山間部の両自治体を活性化するために、共通して実施できる政策を考えよう。</p>				

	7	<p>■山間地域の自治体で共通して実施できることについて、資料を収集し、自分の政策のよさが相手に伝わるようにスライドにまとめることができるようにする。</p> <p>□両地域のよさや課題を把握し、山間部の自治体を活性化するための提案内容について詳しくスライドにまとめる。</p>	●		<p>◆山間部の地方自治体を活性化するための政策について共通点や相違点、よさや課題に着目しながら、必要な資料を収集し、説得力のある政策スライドを作成している。</p> <p><ワークシート・発言（思・判・表）〔記〕></p>
<p>[本時のめあて] 私たちの暮らす山間部の両地域を活性化するための政策案を作成するため、必要な資料を収集し、政策スライドを作ろう。</p>					
ま と め る	8 本 時	<p>■群馬県議会の「若者ご意見箱」に投稿するのにふさわしい内容を「効率」「効果」の二つの視点から考え、地方自治に参画しようする意欲を高められるようにする。（★協力校と相手校をオンラインでつなぐ）</p> <p>□2軸チャートを用いながら政策の実現可能性を議論し合い、地方自治に参画する態度を養う。</p>	●		<p>◆地方自治に参画するために自分たちがどのように自治に関わっていったらよいかを今までの学習を振り返りながら考えている。</p> <p><ワークシート（態）〔記〕></p>
<p>[本時のめあて] 私たちの暮らす山間部の地域をよりよくする政策について議論し、「若者ご意見箱」に提案するものを選ぼう。</p>					

II 第1時の学習

1 ねらい 地方自治がどのような考えに基づいて行われているか市町村の広報紙を基に気付き、地方自治について興味・関心をもつことができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 地方公共団体の組織や地方自治の内容を確認するとともに本時のめあてを示す。(10分) S:片品村役場、群馬県庁はどのような仕事をしているのか調べてみたい。</p>	<p>○地方公共団体の仕事、組織、地方自治の原則などを確認する。 ○身近な地方自治体の仕事にはどのような仕事があるか、それは何のためにあるのかを問いかける。</p>
<p><めあて> 地方自治はどのような考えに基づいて行われているか。単元の課題を設定しよう。</p>	
<p>2 単元の課題を提示し、広報誌を用いながら、市区町村や都道府県の地方自治体の仕事についてジャムボードを使いながらグループで整理する(★)。(10分)</p>	<p>○Google classroomを用いて、資料のリンク先を貼り付け閲覧しやすいようにする。紙の資料も準備し、活動が進めやすいようにする。</p>
<p>[単元の学習課題] 片品村・下仁田町の山間地域を活性化する政策を県議会に提出しよう。</p>	
<p>広報かたしな(令和5年4月号) 広報しもにた(令和5年5月号)</p>	<p>○単元の学習課題を提示し、活動の意味や流れについても説明を加える。</p>

<p>群馬県先輩職員の声</p> <p>S：市町村の仕事は小中学校やゴミなど身近なことだと分かった。</p> <p>S：県の仕事はいくつかの市町村にまたがるようなものだと分かった</p> <p>S：国は全国的な視点で行う仕事で、地方自治体の仕事は私たちの生活に密接に関わっていることが分かった。</p>	<p>◎群馬県議会の「若者ご意見箱」のページを提示し、課題意識をしっかりともたせる。</p> <p>○活性化ということは地域社会がよりよくなることで「経済的に豊かになること」だけを意味することではないことをおさえる。</p> <p>○ジャムボードに整理する中で、市町村や都道府県の仕事の違いや国の仕事との違いについて考えられるように助言する。</p> <p>○村政、県政に望むことのアンケート項目を提示し、自分たちがどのように関わっていけばよいのかも考えることができるようにする。</p>
<p>3 広報誌を用いながら、市区町村や都道府県の地方自治体独自の政策（群馬県、片品村、下仁田町について調べ、地方分権が普及していることに気付かせ Web 掲示板で共有する（★）。（15分）</p> <p>群馬県地方分権 Web ページ 広報かたしな（4月号） 広報しもにた（5月号）</p> <p>S：地方自治体が独自の政策が行えるのか。</p> <p>S：片品村は林業や海外派遣授業、婚活サービスなど独特だ。</p> <p>S：群馬県のパスポートは市町村で取れることも独自なんだ。</p> <p>S：下仁田ジオパーク事業など下仁田町でも独自のことを行っているね。</p>	<p>◎群馬県、片品村、下仁田町の政策の違いを踏まえることで、今後遠隔交流授業を行いやすくする。</p> <p>○群馬県の「ぐーちょきパスポート」を例示して他にも独自の政策がないか調査させる。</p> <p>○片品村、下仁田町の位置について確認し、特産品や人口について簡単に説明する。</p> <p>○群馬県議会の Web ページの「若者ご意見箱」のページを提示する。</p> <div data-bbox="826 846 1426 1048" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>地方自治体の活動に興味をもち、単元の課題解決に向けて、主体的に学習を進めていこうとしている。</p> <p><ワークシート（主）></p> </div>
<p>4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。（10分）</p> <p>S：片品村、下仁田町の両地方自治体にとって役に立つ政策とは何なのだろうか？</p>	<p>○単元の課題解決と学習態度の2点で振り返りを行うシートに入力するよう促す。</p> <p>○地方自治についての感想が書いている生徒を適宜指名し発言してもらい、振り返りの参考にする。</p>

3 参考文献、著作権関係等

群馬県ホームページ

<https://www.pref.gunma.jp/page/12894.html> (2023-09-08)

広報かたしな（4月号）

<https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf> (2023-09-08)

広報しもにた（5月号）

<https://www.town.shimonita.lg.jp/chocho/m01/m07/m13/2023.5.pdf>
<https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf> (2023-09-08)

4 板書計画

<めあて>地方自治はどのような考えに基づいて行われているか。単元の課題を設定しよう。

地方公共団体（自治体）都道府県・市区町村のこと
 地方自治体の仕事 市区町村 小中学校 ゴミ、水道
 都道府県 高等学校、警察

地方独自の仕事・・・地方分権一括推進法で進められている

[単元の学習課題]

片品村・下仁田町の山間地域を活性化する政策を県議会に提案しよう。

第2時の学習

- ねらい 地方自治の仕組みを地方議会と首長の役割を中心に理解し、地域の事例を基に理解できるようにする。
- 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 地方議会の様子を示し、地方の政治に対して興味をもつ。(5分) S: 片品村議会、群馬県議会はどんなことをしているのか興味があるぞ。 [本時のめあて] 地方自治はどのような仕組みで行われているのか。片品村、下仁田町、群馬県を基に調べよう。	○県議会、市町村議会の実際の写真から興味を高める。 ○群馬県議会の様子を提示し、市町村議会を比較し、気づきを促す。
2 デジタル教科書(地方議会)を視聴し条例の制定、改廃予算の議決が地方議会の仕事であることを確認し、条例案について調べWeb掲示板にまとめる(★)。(20分) 片品村例規集 下仁田町例規集 群馬県法規集 S: 群馬県民の日条例のおかげで休みなんだ。 S: 片品村には尾瀬の日の条例、下仁田町には蛍の里条例など各地に独特の条例があるんだ。 S: 下仁田ジオパーク事業など下仁田町でも独自のことを行っているね。	○Google Classroomを用いて、資料のリンク先を貼り付け閲覧しやすいようにする。紙の資料も準備し、活動が進めやすいように支援する。 ○地方議会と国会が似た役目であることに着目点を示して理解を促す。 ◎デジタル教科書で条例の意味や条例が新しく設置された福岡県の自転車安全利用条例を紹介し、なぜその自治体に独自の条例があるのかの意味についても触れる。
3 国の政治と異なる部分(二元代表制、直接請求権)について調査し、発表する(★)。(15分) S: 国の政治と違って条例の改廃や制定に住民が関わられる S: 国の政治と違って、首長と議員の両方を選ぶことができる S: なぜ、首長は首相と異なって、住民が直接選挙で選ぶことができるのだろうか?	○国の政治の仕組み(教科書p97)地方の政治の仕組み(教科書p112)の相違点を比較するよう指示を出す。加えて、直接請求権の権利についての資料をに注目させ、国の政治との違いについて気づきを促す。 ○二つの制度がより住民の声を反映しやすい仕組みとして地方自治で認められていることの気づきを促したい。 ◆地方自治の仕組みを地方議会と首長の役割を中心に理解し、地域の事例を基に説明している。 <ワークシート(知・技) [記]>
4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。(10分) S: 片品村、下仁田町にふさわしい条例を考えるのもよいのかもしれない。 S: 地方自治体の政治はより住民の声を反映しやすくなっているのだから積極的に発言しないとけない。	○単元の課題解決と学習態度の2点で振り返りを行うシートに入力するよう促す。 ○地方自治についての感想が書けている生徒を適宜指名し発言してもらい、振り返りの参考にする。

3 参考文献、著作権関係等

片品村例規集

<http://www.vill.katashina.gunma.jp/reiki/reiki.html> (2023-09-08)

下仁田町例規集

https://www.town.shimonita.lg.jp/html/reiki_int/reiki_menu.html (2023-09-08)

群馬県法規集

<https://ops-jg.dl-law.com/opensearch/SrMjF01/init?jctcd=8A7FE9A39A> (2023-09-08)

4 板書計画

<めあて>地方自治はどのような仕組みで行われているのか。片品村、下仁田町、群馬県を基に調べよう。

地方議会・・・条例の制定、改廃 予算の議決
 地方自治体の条例
 群馬県民の日条例
 片品尾瀬の日条例
 しもにた・ほたる山公園の設置及び管理に関する条例

地方の政治組織独自のこと
 (国の政治にはない)
 二元代表制・・・首長と議会議員を直接選挙する
 直接請求権・・・条例の制定や解職請求など
 より住民の意思を強く政治に反映させる仕組み

公民ファイト② 地方自治の制度

1 地方議会の仕組みについて調べましょう

① 地方公共団体の長を何と呼びますか。
 ② 地方議会にはどんなものがありますか。
 ③ 知事や地方議会議員になるには何歳からなれるか。
 ④ 地方議会で決めることができるきまりを何と呼びますか。

①	②	③
④		

2 地方議会の条例について調べてみよう！(独自の条例が見つかるとうい)
 群馬県の条例 片品村の条例 下仁田町の条例

3 地方公共団体のしくみを見て、国のしくみと共通点と相違点を見つけてみよう。また、それはどうしてなのか考えよう。

4 地方公共団体 独自に認められている権利について調べよう。

○ () の制 定や改廃の請求	() 分の1以上	()
○ 監査請求	50分の1以上	監査委員 選挙管理委員会
○ () 請求	() 分の1以上	選挙管理委員会
○ 解職請求 ・議員・首長 ・副知事など	3分の1以上	選挙管理委員会 首長

第3時の学習

- ねらい 各地方公共団体の歳入、歳出表を活用して、財政事情と町づくりの課題点を考えられるようにする。
- 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 地方公共団体の財政について熊本城天守閣の「一口城主制度」を基に、単元の課題を作成する。(10分) S: 片品村、下仁田町の財政にはどのような課題があるのかな。</p> <p>[本時のめあて・課題・見通し等] 市町村の財政にはどのような違いがあるだろうか。</p>	<p>○熊本城の復元費用が多額なため、地方公共団体の財政だけでは復元が可能ではなかったことの気付きを促す。</p>
<p>2 三つの地方公共団体「前橋市・下仁田町・片品村」の歳出(目的別)を見て、共通して取り組んでいる点、特色を出している点を、グラフから読み取り、Jamボードにまとめる(★)。(15分) S: 片品村は農林水産費の割合が高い。 S: 下仁田町は教育費の割合が高い。 S: どの地方自治体も民生費の割合が高い。 S: 片品村や下仁田町は総務費の割合が高い。</p>	<p>○歳出表を見る際、どんな用途に使われる費用の割合が高いのかに着目しながらグラフを見比べることを押さえる。 ○共通する点や異なる点に着目し、資料を分析するよう指示を出す。 ○人口に着目し、人口が少ない割合の自治体の政策にも注目できるようにする。 ○前時までの学習とグラフから「権限が地方に移り、町づくりを各地方公共団体が工夫している。」ことに気付けるよう地方分権という言葉を示し、グラフとともに考えられるように促す。</p>

<p>3 事業をするための地方公共団体の財政はどのようになっているのか地方公共団体を二つに分類し、その理由を発表する。(15分)</p> <p>S：人口が少ない小規模な地方公共団体は地方交付税交付金の割合が高い。</p> <p>S：自主財源が少ないのが山間部の地方公共団体の課題だ。</p> <p>S：自分たちの自治体は国からの支援がないととても苦しいことがよく分かった。</p> <p>S：特色ある政策を行うためには財源が必要なのに、難しい面があるんだな。</p>	<p>○歳入表にある重要用語、地方(町、市)債、地方交付税交付金、国庫支出金などの用語を説明できるか問いかける。</p> <p>○ワークシートに点線を引き、分類させその理由についてその理由について問いかける。(地方交付税の割合に着目させ仲間分けをするように支援する)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>地方公共団体の地方財政についての複数の資料を比較し、山間部の地方自治体の課題点を考えている。</p> <p><ワークシート(思・判・表) [記]></p> </div>
<p>4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。(10分)</p> <p>S：財源を増やしていくと独自の政策ができるようになるかもしれない。</p> <p>S：地方財政はどこも厳しいんだな。</p>	<p>○単元の課題解決と学習態度の2点で振り返りを行うシートに入力するよう促す。</p> <p>○地方自治についての感想が書いている生徒を適宜指名し発言してもらい、振り返りの参考にする。</p>

3 参考文献、著作権関係等

広報かたしな(4月号)

<https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf> (2023-09-08)

広報しもにた(5月号)

<https://www.town.shimonita.lg.jp/chocho/m01/m07/m13/2023.5.pdf> (2023-09-08)

広報まえばし(4月号)

https://www.city.maebashi.gunma.jp/material/files/group/2/koho202304_all.pdf (2023-09-08)

4 板書計画

<めあて>市町村の財政にはどのような違いがあるだろうか。

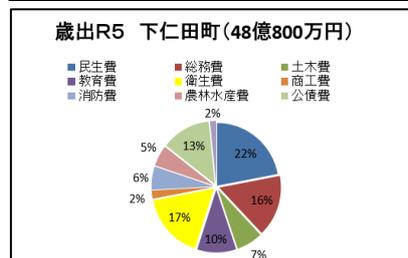
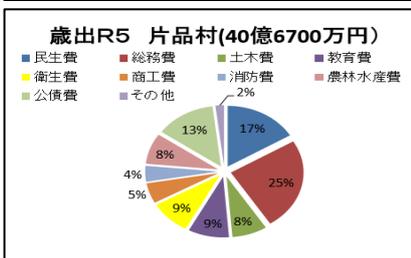
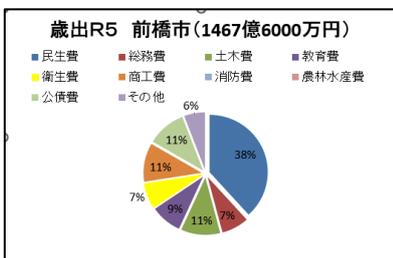
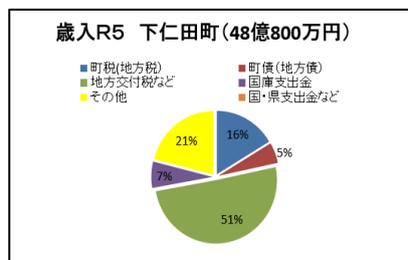
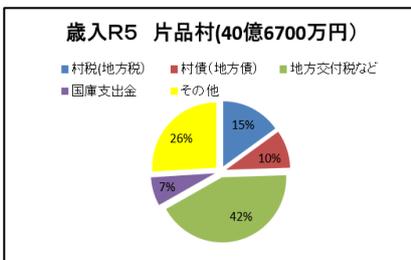
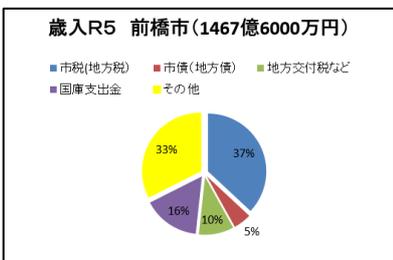
歳入から分かること

- ・地方交付税交付金の割合は人口が少ない自治体は少ない
- ・人口が少ない自治体は総務費の割合が高くなる
- ・独自の財源を確保するのが大変な状況にある

歳出から分かること

- ・地方自治体が独自のことをしている
- ・どの自治体も課題は民生費である

→少子高齢社会に対応するため



第4時の学習

1 **ねらい** 片品村、下仁田町のよさや課題点を調査し、地域社会の活性化を実現するための自治体の政策をグループで調べ、まとめられるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 本時の課題を提示し、地域社会のよさや課題点について紹介できるスライドについてモデルを示す。(5分)</p>	<p>○自分の自治体の特徴、現在行っている政策などから自治体のよさや課題を見直しなが詳しく説明できるように指示を出す。 ○相手校に紹介する例を表示し、本時の学習に対する活動のイメージをもつことができるようにする。</p>
<p><めあて> 地域社会のよさや課題点はどのような点か。自治体の実態や取り組んでいる政策などをまとめ、発表できるようにしよう。</p>	
<p>2 自分の自治体の地域が取り組んでいる地域社会の活性化のための政策をもう一度見直し、グループで分担しながら整理する。(35分) S: 農業や林業の割合が高いのは自分たちの地域のよさだ。作っている農産物について説明を加えたスライドを作成する必要があるな。取り組んでいる政策についても紹介しよう。 S: 観光業が自分の自治体のよさだと思う。観光地について紹介するスライドはもちろん、観光振興についての政策について紹介しよう。 S: 自分たちの地域は、有害鳥獣の課題があったり、人口減少の課題があったりするのだからその解決になるような政策が行われているのでそれを紹介スライドに入れよう。</p>	<p>○片品村の広報誌を見ながら自分の地域の政策を見直す。 ○発表相手が離れた地域のため、村の基本情報は教師が事前に作成しておく。情報を整理する際には相手に分かりやすく伝えるようにすることを伝える。 ○地域社会の活性化のための政策の理由はなぜなのか、どの予算項目に当たるのかを考え説明できるように指導する。 ○周りの友達と相談できる時間を設け、考えを付け加えたり、修正したりするように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目 山間部の地方自治体のよさや課題に着目し、自分の自治体を調査し、スライドに整理している。 <ワークシート(知・技)></p> </div>
<p>3 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。(10分) S: 自分たちの地域の活性化の政策については理解できた。 S: 他の地域ではどのようなになっているのだろうか。</p>	<p>○単元の課題解決と学習態度の2点で振り返りを行うシートに入力するよう促す。 ○地方自治についての感想が書けている生徒を適宜指名し発言してもらい、振り返りの参考にする。</p>

3 参考文献、著作権関係等

群馬県総合戦略

<https://gunma-v.jp/> (2023-09-08)

広報かたしな (4月号)

<https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf> (2023-09-08)

広報しもにた (5月号)

<https://www.town.shimonita.lg.jp/chocho/m01/m07/m13/2023.5.pdf> (2023-09-08)

4 板書計画

<めあて>地域社会のよさや課題点はどのような点か。自治体の実態や取り組んでいる政策などをまとめ、発表できるようにしよう。

→ 自分たちの地域では具体的にどのようなことが行われているか？ 1、2時間目を参考にする
 広報かたしな（4月号）主な政策、その他の月の広報を参考にする
 地域のよさや課題点、それに対する政策などを相手校に説明できるようにする
 （わかりやすく伝える）

5 実践後作成された資料

生徒の作成したスライド例

片品村の農林水産業

農業に関する補助金制度... 森林整備 人材育成
 片品村の農産物
 主力商品 どうもこしトマト 花豆 みたけりんご 大根
 小学校のときはりんご園に見学に行ったこともありました
 標高が640～1200mのため高原野菜の生産が農業産出額が80%
 りんごを使用した有名商品 リンゴジュース りんごはちみつ

片品村で行われている政策とその目的

尾瀬だっパイ この生活支援対策事業は、物産高騰により増大する費用負担の解消に与える影響を踏まえ、全村民に片品村が発行する電子地域通貨が搭載されたカードを配布することにより、住民への生活支援や地域経済の活性化を図ること

尾瀬高校までのバス代無償化 尾瀬高校とは連携校であり教育を村民にしっかり受けさせるため、小さくても輝く村の実現に向けて

片品村5つのゼロ宣言2050 令和4年2月22日片品村は、2050年温室効果ガスの排出実質ゼロの実現に向けて

小中学校の給食費の無償化 子育て世帯を支援するため

第5時の学習

1 **ねらい** それぞれの地域のよさや課題点について発表し、両自治体の共通するよさ、課題点についてグループで考えられるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 本時の目的について指示を出し、活動に取り組む見通しをもたせる。(5分) S：発表が楽しみだ。がんばりたい。	○Web会議システムの使用方法、グループごとの小部屋の部屋割りを伝え、グループ活動が実施しやすい準備をしておく。指定されたヘッドセットを事前に配布しておく。 ○両校で活動の内容について指示を出す。
<めあて> 両自治体にはどのようなよさ（強み）や課題（弱み）があるのだろうか。また、共通するよさや課題点はどのような点か考えよう。	
2 Web会議システムの小会議室分割機能を使用し、グループごとに分かれ、各自自治体での活性化の取組について説明を行う。相手校生徒は地域外の人としてのよさや課題について伝える(★)。協力校発表10分、相手校発表10分。(20分) S：片品村のよさ、政策のよさは自然の豊かさが魅力だ。 S：下仁田のネギの栽培は地域の本当に重要な産業だ S：下仁田の絹産業遺産群については小学校の4年生の時に片品村の絹産業について学習したことを思い出したな。	◎Web会議システムの小部屋分割機能を用いて各班で発表を進めるように指示を出す。 ○片品村・下仁田町の政策の相違点や共通点について、考えながら、よさや課題について住民でない立場から伝えられるようにする。 ○本時は前時に書き込んだ部分でなく（外部の人として）の意見の部分を相手側に聞くように指導する。 ○協力校5グループ、相手校5グループが発表し、その後逆の活動を行う。 ◎表計算ソフトを共有し、そこに共同で記入できるようにする。 ○SOWT分析図（縦軸は、よさと課題、横軸は住民として、外部の人として）を用いて話し合いをスムーズに行えるようにする。

<p>3 自分で発表を終えた後、両地域の相違点や共通点について見直し、グループでSWOT分析図に整理する。(20分)</p> <p>S: どちらも自然が豊かな特徴があるそれをもっと発信できたらよい。</p> <p>S: 交流することで新たな発見があった。実は片品村の降雪はよさでもあるんだと感じた。</p> <p>S: 国際的な視点がどちらもある。考えられている。</p> <p>S: 有害鳥獣の駆除は共通する課題のようだ。</p> <p>S: 自分たちの地域のよさについては地域外の人から見ると、自分たちにはない発見があったな。</p>	<p>◎考えられる地域の共通点や相違点、課題となっている点について多くの意見を出すようにチャット機能を用いて指示を出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>二つの自治体のよさや課題点に着目し、共通点や相違点を発見している。</p> <p><ワークシート(思・判・表)></p> </div>
<p>4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。(5分)</p> <p>S: 自分の地域の独自性がよく分かった。</p> <p>S: 相手の地域ではこんなことが行われていることが分かった。やはり自治体が異なると政策も違うことをより感じた。</p>	<p>○単元の課題解決と学習態度の2点で振り返りを行うシートに入力するよう促す。</p> <p>○地方自治についての感想が書いている生徒を適宜指名し発言してもらい、振り返りの参考にする。</p>

3 参考文献、著作権関係等

群馬県総合戦略

<https://gunma-v.jp/> (2023-09-08)

広報かたしな (4月号)

<https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf> (2023-09-08)

広報しもにた (5月号)

<https://www.town.shimonita.lg.jp/chocho/m01/m07/m13/2023.5.pdf> (2023-09-08)

4 板書計画

<p><めあて> 両自治体にはどのようなよさ(強み)や課題(弱み)があるのだろうか。また、共通するよさや課題点はどのような点か考えよう。</p> <p>① Web会議システムの小部屋共有機能を使用して各地域の説明を行う (20分)</p> <p>② 各地域の政策の共通点や相違点などについて話し合う (15分)</p> <p>③ 本時の振り返り (10分)</p>
--

5 分析で使用したSWOT分析図

片品村		他地域に住む人の視点 (下仁田中)		共通する・課題やよさは?	
よさ (強み)	夜空がとてもキレイ 自然がとても豊か 尾瀬 色々な動物が見れる	色々な動物が見られる	共通するよさ (強み)	自然が豊か 動物も多くいる	野菜などの多くの農作物を生産販売している
課題 (弱み)	人口減少、少子高齢化 クラスの半数以上の人 は、将来片品村を出ると 考えている。	少子高齢化が重なっている 人口減少		観光場所がある	
下仁田町		他地域に住む人の視点 (片品中)			
よさ (強み)	サラダバーグ ねぎ とごんにやく 荒船 風穴、道の駅、神津 牧場、あじさい園、 などの観光 自然に囲まれている	山が多い 道の駅や牧場などの観光場 所が多くある	共通する課題 (弱み)	人口が少ない	有害鳥獣
課題 (弱み)	メインで観光する場 所がない 少子化高 齢化が進んでいる	人口が少ない メインで観光できる場所が 少ない 少子高齢化		少子高齢化	

第6時の学習

1 **ねらい** それぞれの地域のよさや課題点を踏まえて、山間地域の両自治体で共通して実施できる政策について政策案を考えることができるようにする。

2 **展開**

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 本時のめあてを提示し、下仁田中学校との最終交流にむけての政策案を考える。(5分) S:しっかりと発表できるように準備したい。</p>	<p>○レポートの最終形態をもう一度確認し、見直しをもたせる。 ○政策案について個人で考え、自分なりの政策についての意見など作成する時間であることを確認する。</p>
<p><めあて> 前時の片品村・下仁田町のよさや課題を踏まえて、山間部の両自治体を活性化するために、共通して実施できる政策を考えよう。</p>	
<p>2 各地域の政策の共通点や違い、自治体の行っている政策などを見直しなが、自分なりに山間部の地域を活性化していく政策内容を考え、政策を個人で表計算ソフトに書き出す。(20分) S:共通するよさが自然の豊かさであるので自然の豊かさを知ってもらえるような政策が必要だろうな。 S:どちらも、農林水産業が盛んな地域だからもっと農業をする人を増やすような政策ができるとよいのではないだろうか。 S:自然が豊かな場所なのでクリーンエネルギーなどを利用した政策を行っていくとよいのではないか。 S:外国籍の人は少ないが、これからグローバル化が進展する中なので「外国籍の方」とふれあったり、外国語を学ぶ機会を増やしていく必要があったりするのではないか。</p>	<p>◎前回の共通点、相違点、政策の課題のどの部分から生まれたのかを考えながら提案できるようにする。 ○山間地域の共同政策まで広げられるように、地域の共通点に着目するように促す。 ○地方創生事例集などを用いて先進的な取組について似た事例がないか調べる。 ○表計算ソフトに書き出すことで、似たテーマを実施している生徒と話し合わせやすくし、クラス内での情報交換や資料共有をしやすくする。</p> <p>◆評価項目 山間部の地方自治体を活性化する政策についてよさや課題点、政策分野に着目しながら政策案を作り出している。 <ワークシート・発言(思・判・表)〔記〕></p>
<p>3 自分に必要な資料やデータを見直す。(20分) S:片品村の尾瀬に関する条例や下仁田町のジオパークの資料は説明に欠かせないだろうな。自然豊かな他の地域の実態はどうなっているのだろうか。 S:片品村のトマトの出荷額や、下仁田町のネギとこんにゃくの出荷額データは必要だろうな。農業人口を増やす政策はどのようなものがあるのだろうか？ S:片品村ではクリーンエネルギーの支援金があったけど活用状況などはどうなっているのだろうか。下仁田町でも進められるのではないかな。</p>	<p>○自分に必要なデータについて片品村、下仁田町の実態について発表や自分たちの学習内容をもう一度見直す。 ○先進的な取組事例(地方創生事例集)を参考に、自分たちの取組に生かせそうな部分を見直す。 ○例示したものの文章を参考に、政策名、政策設定の理由、政策に用いる資料の部分を書き込むように指示を出す。 ○データの引用先は著作権の関係かしっかりと提示するよう指導する。</p>
<p>4 本時を振り返り、次時への見直しをもつ。(終末5分) S:自分は、クリーンエネルギーを地域で導入していくことで、自分たちの自治体を持続可能な地域社会にすることができると思う。しっかり提言できるようにしたい。</p>	<p>○単元の課題解決と学習態度の2点で振り返りを行うシートに入力するよう促す。 ○地方自治についての感想が書いている生徒を適宜指名し発言してもらい、振り返りの参考にさせる。</p>

3 参考文献、著作権関係等

群馬県総合戦略

<https://gunma-v.jp/> (2023-09-08)

広報かたしな (4月号)

<https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf> (2023-09-08)

広報しもにた (5月号)

<https://www.town.shimonita.lg.jp/chocho/m01/m07/m13/2023.5.pdf> (2023-09-08)

地方創生関連事例

<https://www.chisou.go.jp/sousei/data/case.html> (2023-10-23)

4 板書計画

<めあて> 前時の片品村・下仁田町のよさや課題を踏まえて、山間部の両自治体を活性化するために、共通して実施できる政策を考えよう。

- ① 片品村・下仁田町に共通するよさや課題を踏まえて考える
- ② 政策分野を考え、共通して実施できる内容について考える
(自分たちの調べた政策を広げたり、改善したりすることに注目する)
(新しい取組みを見出す)
(課題解決を行っている先進的な事例を調べるなど)

第7時の学習

1 **ねらい** 山間地域の自治体で共通して実施できることについて、資料を収集し、自分の政策のよさが相手に伝わるようにスライドにまとめることができるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 本時の流れについて示し、活動に取り組む見通しをもつ。(10分) S：提案を具体的にするために前時分かった資料のどこに注目すればよいか考えないといけない。 S：自分の住む市町村と別の市町村の現在の実態も考えるようにしないといけない。	○参考となる資料(群馬県総合計画)などを参考に指示を出す。 ◎スライド例はデータにて配付し、全生徒が共有できるようにする。
<p><めあて> 私たちの暮らす山間部の両地域を活性化する政策案を作成するため、必要な資料を収集し、政策スライドを作ろう。</p>	
2 前回の記述や内容を基に政策設定の理由と実施された際の効果について考える。(35分) S：実際の村民、町民の声が前回の検討であったので、それを入れながら資料を作成したい。 S：棒グラフや円グラフを入れて、データを見やすくする必要がある。 S：農業人口を増やすための政策を詳しく説明しそれを実態に合わせる必要があるだろうな。 S：観光業でエコツーリズムを県で実施した場合は片品村・下仁田町以外の地域でも自然が豊かな地域を加える必要があるな。	○各自の進行状況に応じて助言ができるように、表計算ソフトに政策名を入力するように指示を出す。 ○政策を生徒が共有することで、似た政策を作っている生徒の調査を生徒が見に行ったり、相談できたりするようにする。 ○前時のアドバイス、自分の調査項目を見直しながら、記述するように指示を出す。 ◆ 評価項目 山間部の地方自治体を活性化するための政策について共通点や相違点、よさや課題に着目しながら、必要な資料を収集し、説得力のある政策スライドを作成している。 <ワークシート・発言(思・判・表)〔記〕>

<p>3 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。 (5分) S：自分の作品はどの班が読んでくれるのだろうか？ S：自分としては納得ができるスライドができたので人にしっかりと伝わるとよいな。</p>	<p>○単元の課題解決と学習態度の二点で振り返りを行うシートに入力するよう促す。 ○地方自治についての感想が書けている生徒を適宜指名し発言してもらい、振り返りの参考にする。</p>
--	--

3 参考文献、著作権関係等

群馬県総合戦略

<https://gunma-v.jp/> (2023-09-08)

広報かたしな (4月号)

<https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf> (2023-09-08)

広報しもにた (5月号)

<https://www.town.shimonita.lg.jp/chocho/m01/m07/m13/2023.5.pdf> (2023-09-08)

4 板書計画 注：写真やICT活用の際の画面も可とする

<くめあて>私たちの暮らす山間部の両地域を活性化する政策案を作成するため、必要な資料を収集し、政策スライドを作ろう。

- ① 下仁田町・片品村に共通するよさや課題を踏まえて考える
- ② 政策分野を考え、共通して実施できる内容について考える
(自分たちの調べた政策を広げたり、改善したりすることに注目する)
(新しい取組を見いだす)
(先進的な事例を調べるなど)

5 実践後の資料

生徒のスライド作成例

<p>6 政策 群馬の給食の日</p> <p>○設定の理由 (山間地域の強みを伸ばす・弱みを活かすため) 片品や下仁田には都会には負けない特産品があるのに知らず知らず知名度が低いから。その理由としてなかなか都会の人に食べてもらう機会が少ないことが考えられる。もう一度食べたいと思った人が今度は実際に現地を訪れ、観光地とともに特産品を楽しんでもらえると思うから。</p> <p>○設定内容 (共同・共通をキーワードに) 山間地域の特産品を前橋や高崎など人の多い都会で食べてもらうために都会の小・中学校の給食の食材に山間部の特産品を使い、食べる際に生産地域の人が魅力や特徴を講演する機会を作る。そして美味しいと思った人に現地に来てもらえるようにする。</p> <p>○費用 約100万円</p> <p>○対象者 (効果) *広さや深さ 前橋・高崎の小・中学生 群馬県前橋市・高崎市の小・中学生の数：50451人 (令和5年度)</p> <p style="text-align: right;">片品中 10月24日 (群馬給食の日)</p> 	<p>20 政策 農業体験</p> <p>○設定の理由 共通する課題「農業の担い手、後継者の不足」を改善するのが重要だと考えたから。</p> <p>○設定内容 都会の人たちにも土いじりや作物の苗を植える、作物を収穫するなどの体験をし農業の楽しさを知り興味を持ってもらい今後また田舎に行こうかな、移住しようかなと思ってもらうのが目的</p> <p>○費用 約300万円 (鳥取県の先進事例から)</p> <p>○対象者 都会の人や子どもたち</p>
--	--

第8時の学習

1 ねらい 群馬県議会の「若者ご意見箱」に投書するのにふさわしい内容を「効率」「効果」の二つの視点から考え、地方自治に参画しようとする意欲を高められるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応 [S] ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目 (観点)</p>
---	---

<p>1 本時の目的について指示を出し、活動に取り組む見通しをもたせる。(10分) S：今日はご意見箱に提案する内容を選ぶ活動だな。 S：理由をしっかりと、記述しなければいけないな。</p>	<p>◎Web会議システムにて発表を行うことを確認する。 ○班ごとに指示にある部屋に入室するように各自指示を出す。 ○家庭学習で二つ政策を選んでおいたか、分析ができているかを確認する。 ○2軸チャートの使用方法について確認する。</p>
<p><めあて> 私たちの暮らす山間部の地域をよりよくする政策について議論し、「若者ご意見箱」に提案するものを選ぼう。</p>	
<p>2 効率、効果についての視点を取り入れた2軸チャートを用いながら群馬県議会の「若者ご意見箱」に投稿するのにふさわしい政策を検討する。(30分) S：この政策は効果的だね。山間部の自治体全てに効果があるかもしれない。どうだろうか。 S：この政策はすぐ実施できるので効率性は高いが、効果は小さいのではないか。 S：この提案は自分たちの地域の課題解決の効果はあるけれども、費用面から実現性は難しいのでは。 S：この政策の効果については山間地域の自然のよさを知ってもらうために多くの人に訪れてもらうことにあると思う。この意見は効果的な考え方だな。 S：この政策は、二つの自治体で実施していくことを県が援助することから、効率的なのではないか。</p>	<p>○実現性が高いとは「予算がかからない、とりくみやすい」などの視点、効果が高い「両自治体の課題を解決しているか、よさを伸ばせているか?多くの人に利益をもたらすか」の視点であることをおさえる。 ○Jamボードにグループの意見を書き出し、それをプロットしながらランキングを作成する。 ○政策案の概要版を事前に印刷しておき、グループで文章を見ながら検討するように指示を出す。 ○政策案に関しては匿名にし、評価がしやすいように配慮する。 ○政策が決定したグループは共有フォルダのスライドの文章について入力し、若者ご意見箱への投稿の準備をする。</p>
<p>3 発表を振り返り、私たちの地域をよりよくするためにどのようなことが大切なのかを考えるとともに本単元を振り返る。(10分) S：政策はいろいろな人の立場を踏まえながら決定していくことが大切だ。 S：長期的な視点や見方も必要なのではないだろうか。 S：緊張感があったけど自分たちの考えを言えてよかった。 S：学校間交流を行ったことで、いろいろな意見を踏まえて考えなければならないことに気付いた。自分の意見も大事なんだ。</p>	<p>◎学校間交流で地方自治について学んだことを記入するように指示を出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目 地方自治に参画するために自分たちがどのように自治に関わっていったらよいかをこれまでの学習を振り返りながら考えている。 <ワークシート(態) [記]></p> </div> <p>○単元の課題解決と学習態度の二点で振り返りを行うシートに入力するよう促す。 ○地方自治についての感想が書けている生徒を適宜指名し発言してもらい、振り返りの参考にする。</p>

3 参考文献、著作権関係等

群馬県総合戦略

[https://gunma-v.jp/\(2023-09-08\)](https://gunma-v.jp/(2023-09-08))

広報かたしな(4月号)

[https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf\(2023-09-08\)](https://www.vill.katashina.gunma.jp/kouhou/files/R5-4.pdf(2023-09-08))

広報しもにた(5月号)

[https://www.town.shimonita.lg.jp/chocho/m01/m07/m13/2023.5.pdf\(2023-09-08\)](https://www.town.shimonita.lg.jp/chocho/m01/m07/m13/2023.5.pdf(2023-09-08))

4 板書計画

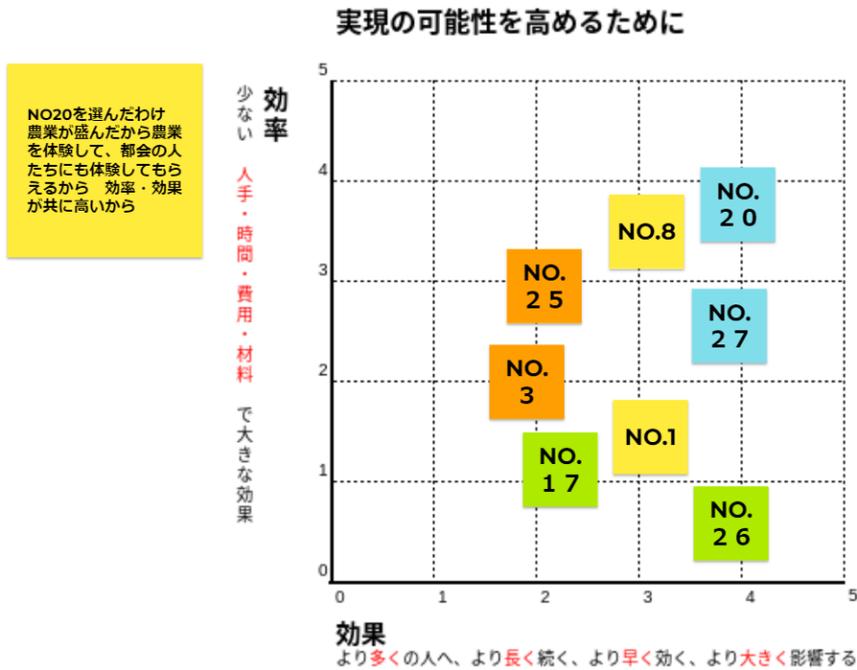
<めあて>私たちの暮らす山間部の地域をよりよくする政策について議論し、「若者ご意見箱」に提案するものを選ぼう。

- ① 2軸チャートで全ての政策を相談しながらポイントする
- ② 効果的、実現可能性が高いものを一つ選び出す
- ③ 選んだ政策の理由を付箋で書く

学習を振り返って
地域をよりよくするためにはどのようなことが大切？

5 実践後の資料

分析で用いた2軸チャート図



参考

小規模校の遠隔合同授業実施のためのICTの活用状況の調査

ICTを用いた遠隔合同授業について、実施状況やその効果、問題点などを明らかにするため調査を行った。今回の調査対象は全県の単学級で授業を実施する中学校社会科教諭に対してアンケート回答をお願いした。（調査期日令和5年9月1日～令和5年10月13日まで 回答教諭数 26名）

なお、調査のために以下の商標または商標登録が使用されています。

Google Meet Google for education Google ドライブは、Google LLC の商標又は登録商標です。Microsoft Teams は、Microsoft Corporation の米国及びその他の国における商標又は登録商標です。

ロイロノート・スクールは、株式会社 LoiLo の商標です。

ミライシードはベネッセコーポレーションの商標又は登録商標です。

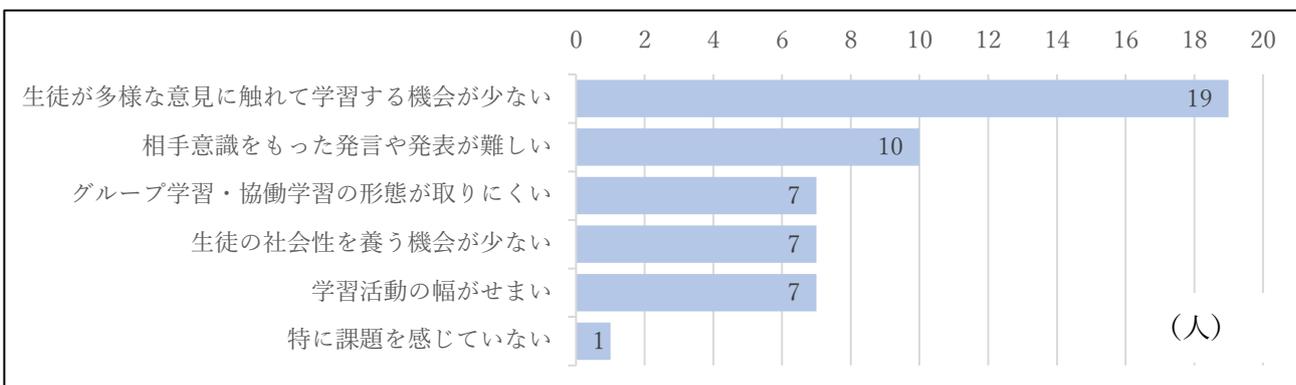
スタディサプリは株式会社リクルートの商標又は登録商標です。

SKY MENU CloudはSky株式会社の商標又は登録商標です。

なお、本文中には TM マーク、® マークは明記していません。

質問項目 1

社会科におけるICTを用いた遠隔合同授業（他の学校とWeb会議システムを用いて話し合ったり、議論をしたり、発表をしたりする活動）は単学級のデメリットを解消することを目的としています。社会科の授業を単学級で実施することは、こういったところで課題を感じていますか。当てはまるものにチェックを付けてください。（複数選択可）

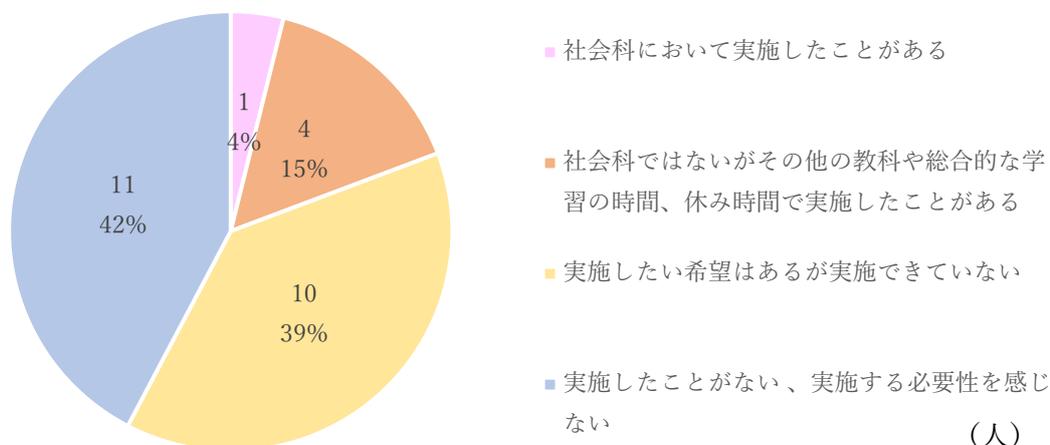


分析

社会科の授業において、1番回答が多かったのは「生徒が多様な意見に触れて学習する機会が少ない」と回答している。2番目は「相手意識をもった発言や発表が難しい」3番目として「学習活動の幅が狭い」が挙げられている。多面的、多角的な考え方を養うためには多様な意見に触れる機会が少ないことは単学級の大きな問題点であると考えられる。人間関係が固定化され良好な人間関係の中で交流がされているため「相手に応じて情報を取捨選択して発言したり、発表したりする機会が少ないこと」を課題として挙げている先生が多い。ICTを用いた遠隔合同授業がこのような問題点を解決するための一つの手段として選択できるようにしていく必要がある。

質問項目 2

I C Tを用いた遠隔合同授業（他の学校と Web 会議システムを用いて話し合ったり、議論をしたり、発表をしたりする活動）は実施したことがありますか。

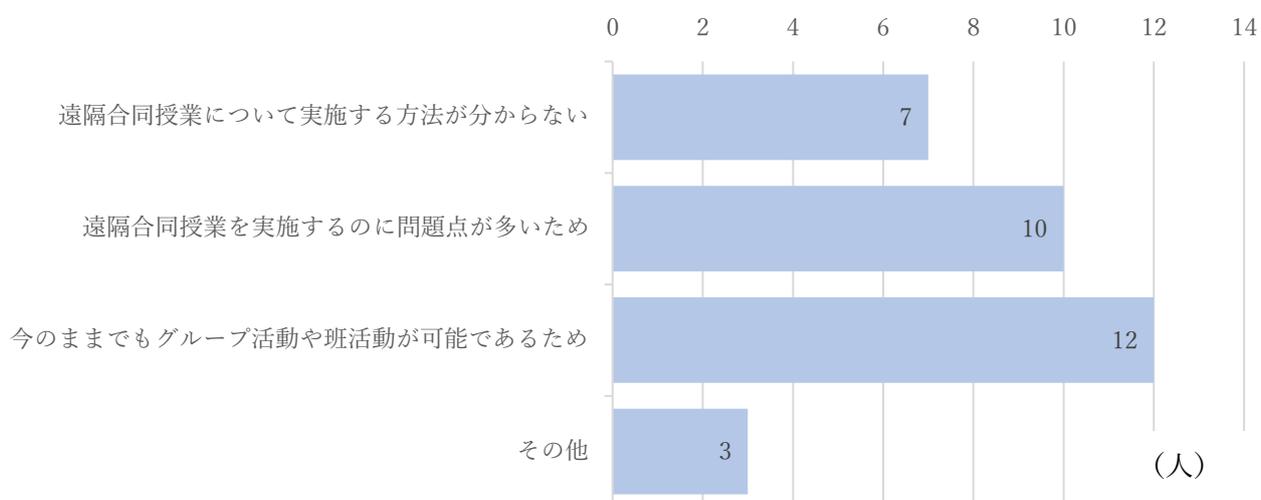


分析

社会科において実施したことがあると回答した学校は本研究に参加した1校にとどまった。県内では社会科においてI C Tを用いた遠隔合同授業がほとんど行われていない。実施したことがない学校のおよそ半数の学校はI C Tを用いた遠隔合同授業を「実施したことがない、実施する必要性を感じない」と回答した。「実施したい希望があるが実施できていない」と答えた学校が半数であった。全県の中学校の単学級を有する学校の半数から要望がある。「社会科ではないが、その他の教科や総合的な学習の時間、休み時間で実施したことがある」という学校が4校あり実施を進めている学校もある。

質問項目 3

質問項目 2 において③実施したい希望はあるが実施できていない。④実施したことがない。実施する必要性を感じない。と答えた方はその理由についてお答えください。（複数回答可）



分析

「今のままでもグループ活動や班活動が可能であるため」が最多の回答となった。人数が20名以上の学校の先生方が多く回答している。続いて「遠隔合同授業を実施するのに問題点が多い」「実施する方法が分からない」という回答も多かった。生徒数が年々減っている中、学校統廃合の困難な小規模校に対してICTを活用し、他校の生徒と交流することで、児童生徒同士の学び合い体験を通じた学習活動の充実を図るために、小規模校の児童生徒が多様性のある学習活動を保証する必要があると思われる。

質問項目4

質問項目2において「①社会科で実施したことがある。②社会科でないがその他の教科等で実施したことがある。」と答えた方は、どのような学習内容で実施しましたか。ご記入ください。

回答

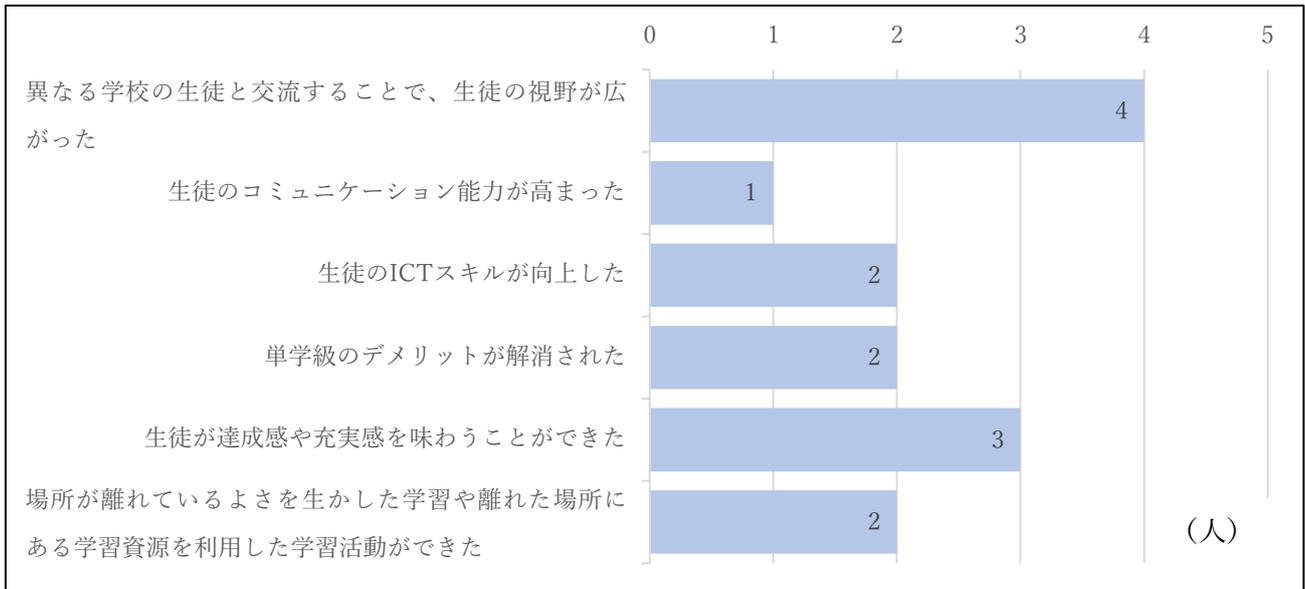
- ・ 英語の学習でオーストラリアのイートンズヒル校との交流
- ・ 同じような小規模校と、互いの地域についての意見交換
- ・ 同市内の中学校との交流
- ・ 総合的な学習の時間において修学旅行の合同発表会
- ・ 3校合同修学旅行発表会
- ・ 総合的な学習の時間で桐生校外学習として、桐生市の歴史や文化、観光等を学ぶために、「案内人の会」の方との交流
- ・ 1学期に長期研修員の仮実践

分析

総合的な学習の時間での活用内容が最も多くの回答を占めた。続いて、英語の学習活動でICTを用いた遠隔合同授業を取り入れている事例が多いことが分かった。発表活動で「普段交流のない相手に発表を行うことで相手を意識しながら発表する」「学習意欲を高める」などの効果を期待して、まずは発表活動を行うことから進めてほしい。

質問項目 5

質問項目 2 において①社会科において実施したことがある、②社会科ではないが、その他の教科や総合的な学習の時間、休み時間で実施したことがあると答えた方はお答えください。ICTを用いた遠隔合同授業の実施にあたり、生徒や教師が得たメリットについて、以下の選択肢から該当するものを選んでください。総合的な時間や他教科、特別活動の時間等で自分が実施した経験していない先生もいると思います。その先生は聞き取り記入をしていただければありがたいです。（複数選択可）

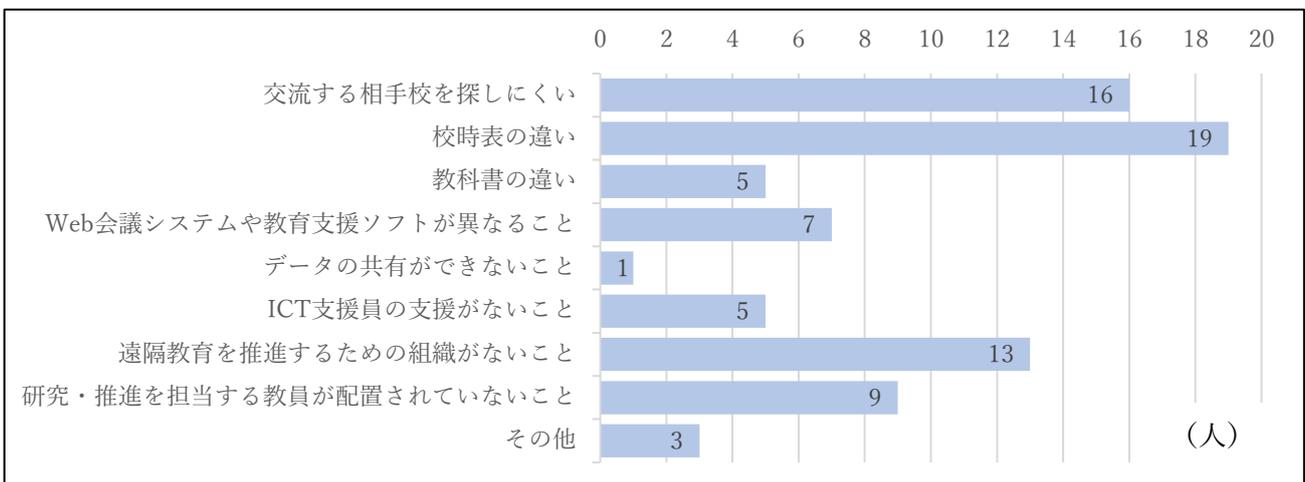


分析

最も効果があると答えた内容は「異なる学校の生徒と交流することで生徒の視野が広がった」と答えた先生方が多かった。ICTを用いた遠隔合同授業は「多様な社会的な意見から、考えを深めていく」社会科の「見方・考え方」の学習場面で、特に有効であると考えている。回答数が少ないため今後実践を積み上げ、効果を検証していく必要がある。

質問項目 6

ICTを用いた遠隔合同授業を行う上での問題点について、以下の選択肢から該当するものを選んでください。（複数選択可）

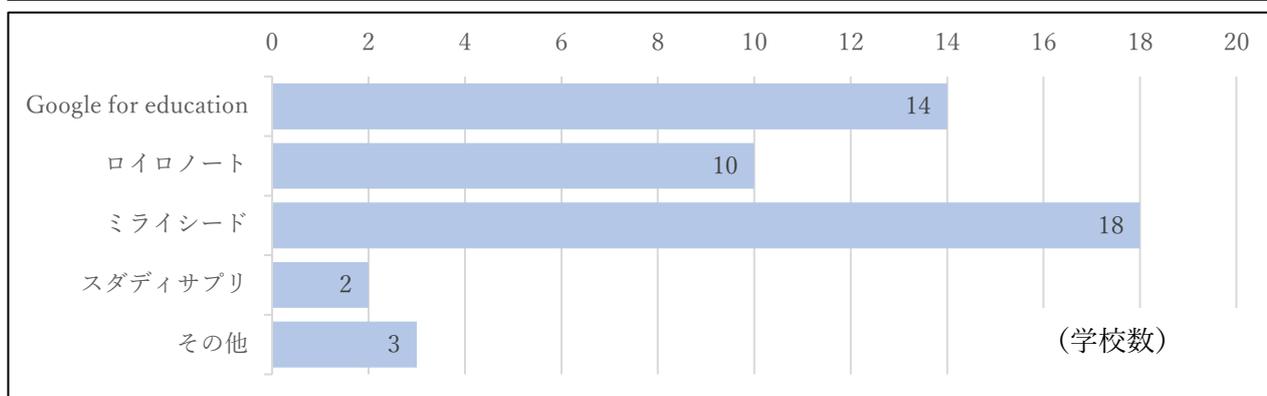


分析

ICTを用いた遠隔授業を実施する上で最も課題として感じている項目は「校時表」の違いを挙げる先生方が多かった。「続いて交流する相手校を探しにくい」という回答があった。その中には「自分たちの必要性と相手の必要性が一致しないこと」という回答も挙げられた。また、「遠隔教育を推進するための組織がないこと」「研究・推進を担当する教員が配置されていないこと」「Web会議システムの異なり方や教育支援ソフトが導入されているものが異なること」をなどが続いた。その他の回答としては「業務量が増加すること。遠隔教育を行う相手と自校の要望が一致しないこと、特に問題点を感じない」などが挙げられた。ICTを用いた遠隔合同授業を行う相手との調整を行っていくような組織を作っていく必要があると考えられる。

質問項目 7

あなたの学校では、生徒が使用する端末にどのような学習支援ソフトが導入されていますか。
(複数選択可)

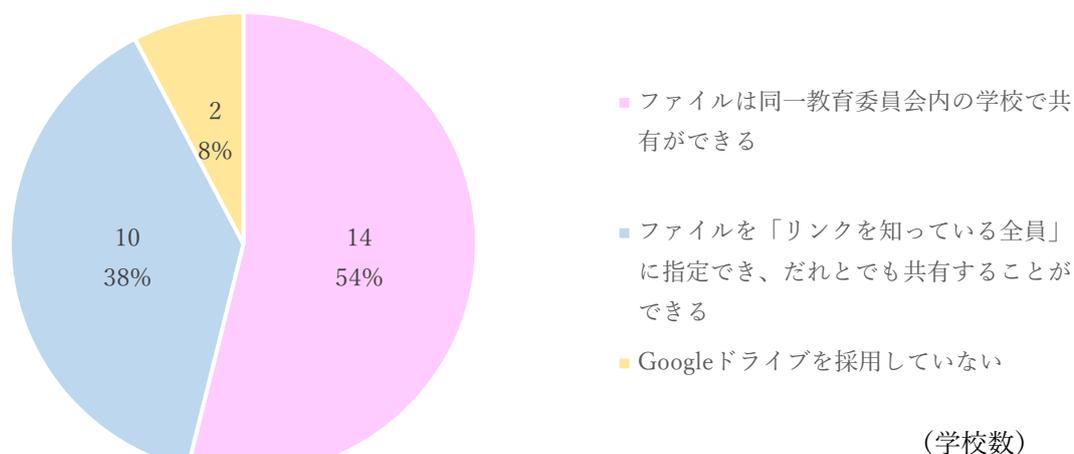


分析

「ミライシード」「Google for education」「ロイロノート」の順となった。また、「SKY MEN UCloud」採用している学校もある。ICTを用いた遠隔合同授業を実施するためには、市町村ごとに導入している学習支援ソフトが異なることを把握することも必要である。

質問項目 8

あなたの学校の生徒は Google ドライブでファイルのリンクをどのような人とまで共有することができますか。

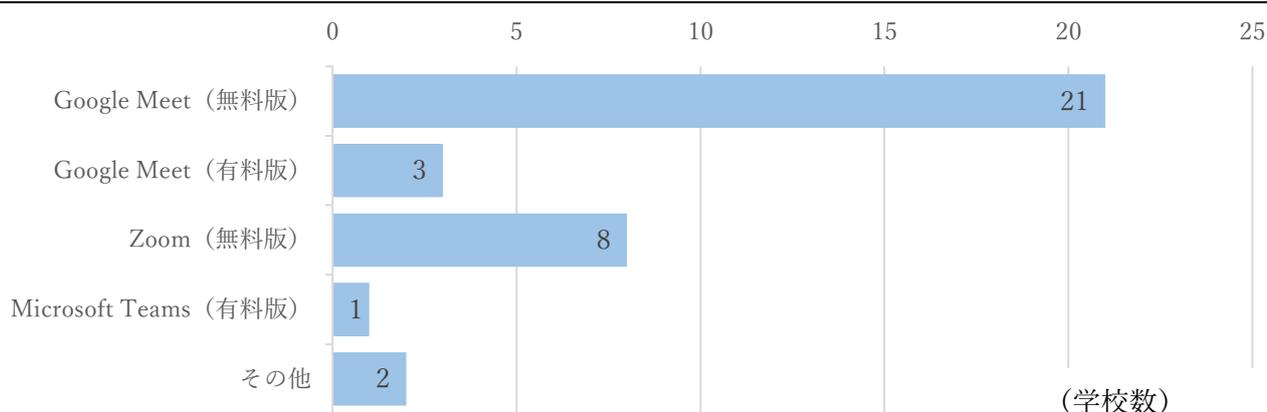


分析

Googleドライブを採用している学校内でのファイル共有先を調査した。「リンクを知っているインターネット上のだれもが閲覧できる」という設定を教師ができる学校は38.1%にとどまった。コメント機能を使って文章を見合って助言したり、作品を見て交流したりするなどのICTを用いた遠隔合同授業を行う場合、ファイルの共有が必要となってくる。セキュリティの関係からか同一の市町村教育委員会内のドメイン指定をしている学校が半数を上回っている。「ICTを用いた遠隔合同授業が他地域の生徒とできるようにするためには「教委委員会内」での共有だけでなく、群馬県内の学校の生徒が結び付くようにしていく必要があると考える。

質問項目 9

あなたの学校では、生徒が使用する端末にどのような Web 会議システムが導入されていますか。



分析

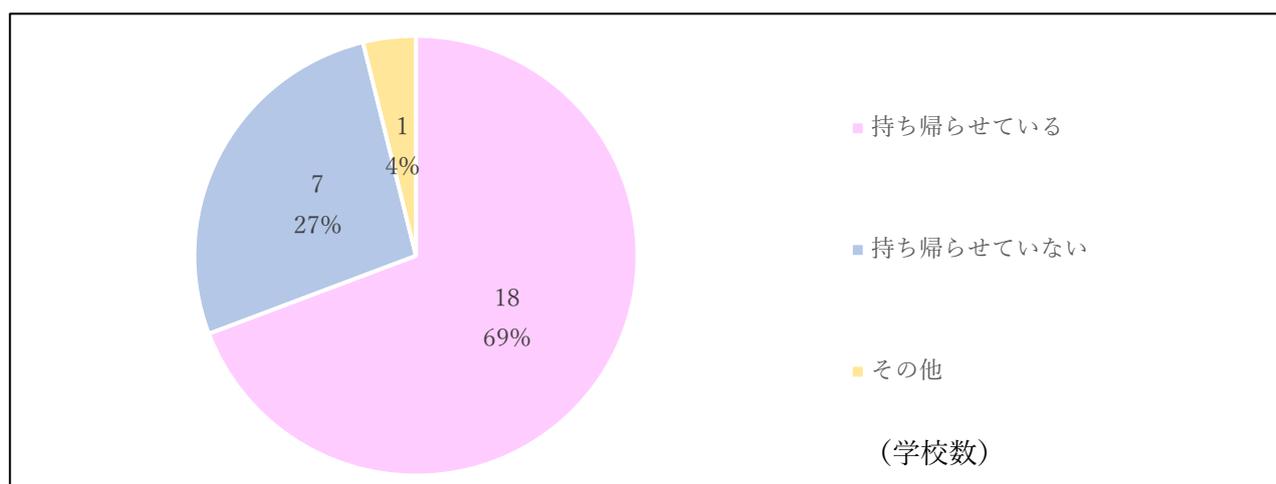
Google Meet (無料版) を導入している学校が最多であった。続いてZoom無料版、次いでGoogle Meet (有料版) という結果になった。Google MeetとZoomの違いは以下の通りである。

	Google Meet (無料版)	Zoom (無料版)
接続端末数	100台	100台
時間	60分	40分
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット ・バーチャル背景 ・挙手 ・画面共有 ・ホワイトボード ・ファイル共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット ・バーチャル背景 ・挙手 ・画面共有 ・ホワイトボード ・ファイル共有 ・ローカル環境への録画
部屋の分割	無料版 不可 有料版 可	無料版 可 (一部の機能が制限) 有料版 可

基本的な性能に差は無いが I C T を用いた遠隔合同授業の実施相手校や実施形態に応じて活用してほしい。有料版を活用すると部屋の分割が可能となりスムーズにグループで活動することができる。

質問項目 1 0

あなたの学校では、生徒が使用する端末の持ち帰りをさせていますか。



分析

I C T を用いた遠隔合同授業を行うためには生徒が I C T を活用するスキルが高まっている必要性がある。特にデータを共有したり、共同で作品を作成したりする際の I C T スキルはとても重要であると考えられる。そのため、日常的に 1 人 1 台端末を活用した授業を実践する必要がある。各教科で積極的に I C T が活用できるように校内研修で I C T に関する研修を行っていき、学校全体で使用率を上げていくことも必要である。また、家庭学習などで I C T を用いて学習させることも考えていく必要があるだろう。1 人 1 台端末を持ち帰り、積極的に活用している学校は増えているが、約 3 割の学校は持ち帰りを実施していない。

アンケート結果からの考察

調査結果によりICTを用いた遠隔合同授業については多くの課題が現れた。「相手校探しや学習カリキュラムの打ち合わせが難しい、適切なテーマが見付けられない、遠隔交流授業をしたいが進め方が分からない」などの課題が多く、多くの学校から取り上げられている。

総合的な学習や英語科の学習において積極的に活用し、学習意欲の向上、コミュニケーション能力の向上の目的で積極的に遠隔授業を取り入れている学校も何校も見られた。学校間でのICTツールの活用状況、ICTを用いた遠隔合同授業への取組みに差があることも課題である。

これらの課題を解決するためには実践事例を集め、多くの先生方に実践例を知っていただくことや時間割の調整、ICTを用いた遠隔合同授業を行いたい学校同士が知り合う機会を設定していくなどの必要性がある。「学校間の遠隔授業マッチングサイトの設置」「遠隔授業促進のための交流のための組織や専門的な教員の支援が得られる組織」などの編成を検討しなければならないと考える。